令和７年度　旗屋小学校　学校努力点全体会資料　　令和７年４月17日

１　主　題　　キャリア教育を通して、自己肯定感を高めていく児童の育成

～みらいキラキラ大作戦～

２　研究のねらい

本校では、令和４年から６年度の３年間、『みんなで考えよう！学びを深めよう！』をテーマに、協働的に学ぶ児童の育成を目指してきた。協働的に学ぶ児童を育てるために令和４年度では、児童の学習課題に対する意欲を高めるための『主体性』、令和５年度では、児童が自分と相手の考えを共有し、学びを進めていくための『対話』、令和６年度では、学習のまとめの場面で『学びの深まり』と『自己の成長の実感』に焦点を当て、実践を行ってきた。３年間の実践を通して、学習課題に対し、自分の考えをもち、自他の考えを比較したり、組み合わせたりしながら、仲間と共に学びを深めていく児童の姿が見られ、本校が目指す児童像に近づくことができたと考える。

本年度では、学校努力点のテーマを『キャリア教育を通して、自己肯定感を高めていく児童の育成』とし、実践を進めていく。児童が将来、社会で活躍をする頃には、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、社会構造や雇用環境は大きく変化し、予測困難な時代が待ち構えるとされている。このような時代の中でも、社会の変化に受け身になるのではなく、様々な困難と主体的に向き合い、自らの可能性を発揮し、多様な他者と協働しながら、よりよい人生を切り拓くことができる児童を育むことが大切であると考える。

名古屋市教育委員会は、名古屋市学校教育の重点項目として、社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力を身に付けるためのキャリア教育の充実を挙げており、日頃の授業から、児童が自分の「好き」や「できる」を大切にしながら、人生の多様な選択肢の中で、自分らしい生き方を実現する力を身に付ける時間を「キャリアタイム」と位置付け、キャリア教育の充実を図ることを示している。また、本校は昨年度よりナゴヤ学びのコンパスの取り組みの一つとして、沢上中ブロックで連携し、キャリア教育に力を注いでおり、学校努力点として、キャリア教育をテーマに実践を進め、学びを深める必要性が高いと考える。

昨年度の学校努力点の成果として、児童が自分のよさやできることを認識した上で、学習課題に対する目標を立て、活動に取り組むことで、単元の終わりに新たな課題を見出したり、さらに学びを深めようとしたりする姿が見られることが分かった。また、学習を振り返る際に、他者から頑張りを認められることで、児童の自己肯定感が高まり、自己の成長を強く実感し、様々な教育活動に対して前向きに取り組もうとする姿が見られることも分かった。

以上のことから、児童が学校生活の中で、自分の「好き」や「できる」を知り、日々の授業の中で自己のキャリア形成を図り、自他の頑張りを認め合い、自己肯定感を高めていくことで、児童が自らの力で生き方を選択していくために必要な能力や態度を育み、未来を輝かせることができるようになると考えた。

本年度は、以下の内容に重点を置き、実践を進めていくこととする。

○　日々の授業の中で、キャリアの資質・能力を意識して、学習を進めることができるようにする。
→『キャリアカード』の提示

○　振り返りの場面で、自他の頑張りを認め、自己肯定感を高めることができるようにする。
→『ほめほめシート』の活用

３　研究の方法

『キャリアカード』の提示

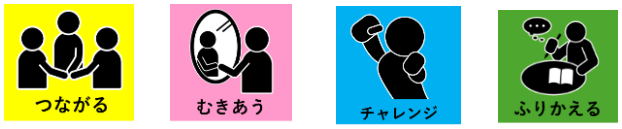
キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力を、児童が理解しやすい言葉に直した『キャリアカード』を作成し、授業の中で提示する。

・人間関係形成・社会形成能力　→　つながる

・自己理解・自己管理能力　→　むきあう

・課題対応能力　→　チャレンジ

・キャリアプランニング能力　→　ふりかえる

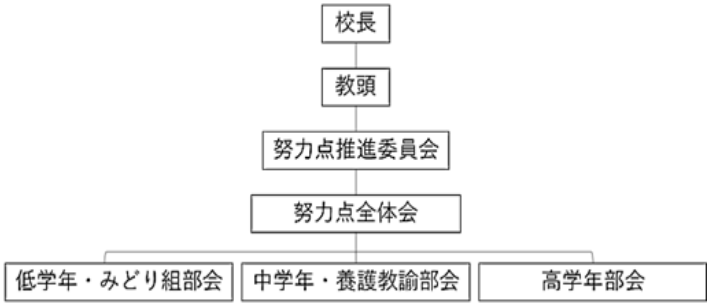


キャリアカードを提示し、学習活動を進めることで、授業の中でどのような資質や能力を育むことができるのかを意識して学習に取り組むことができるようになると考える。また、授業の中でキャリアカードを提示した後に、授業の中で目標を立て、学習に取り組んだり、授業の終わりに振り返りを行ったりすることで、児童のキャリア形成に対する興味や関心を高めたり、なりたい自分を目指し、学習活動に意欲的に取り組んだりすることができるようになると考える。

『ほめほめシート』の活用

振り返りの場面で、校内共通の『ほめほめシート』を活用する。ほめほめシートでは、授業の中で提示したキャリアカード（基礎的・汎用的能力）に対しての振り返りを行うこととする。授業の中で立てた目標の到達具合を振り返ることで、児童一人一人のキャリア形成に対する意識が高まると考える。また、ペアや班など、共に学習活動を進めた友達とほめほめシートを交換し、互いの頑張りを認め合う時間を設けることで、児童の自己肯定感を高めていくことができるようになると考える。作成したほめほめシートは、キャリアパスポートファイルに蓄積し、キャリアパスポートの記入時に見返すことができるようにする。

４　研究の組織



努力点推進委員会は、校長・教頭・主幹教諭・教務主任・校務主任・推進委員長・各学年で選出された推進委員（特別支援学級を含め７人）で組織する。

【各学年の推進委員の主な活動内容】

①　目指す児童像の設定・重点指導事項の設定を行う。

②　学年内のスケジュール調整を行う。

③　推進委員会で決定した内容を学年に伝える。

④　学年の状況を推進委員会で発表する。

５　研究の進め方

(1)　各学年で目指す児童像の設定

・　年度当初の児童の様子を観察した上で、各学年で目指す児童像を設定するようにする（みどり組、１年生は、実態に応じて個々の目指す児童像を設定してもよい)。

・　「目指す児童像」「手立て」を５月９日(金)までに設定する。用紙の提出はしない。

(2)　検証方法

・　児童の自己肯定感の高まりは、ほめほめシートの記述や発言から評価をしていく。

自分や自分の能力を肯定的に捉え、物事を前向きにとらえることができるようになる。

～ができた。次は～をしたい。～うれしかった。～が分かった。等の記述や児童の発言があれば、児童の自己肯定感が高まっていると捉える。

６　公開授業について

・　全担任が、前期・後期のどちらかで公開授業を行う（公開が前期と後期で分かれるように、学年で相談をする)。

前期：　５月 12 日（月）～７月　16 日（水）まで

後期：　10 月　１日（水）～１月　23 日（金）まで

・　どの教科・単元で公開授業を行ってもよいこととする。

・　事前検討会は、授業日の２週間前までに各部会で集まり、実施する。会の取り回しは学年で行う。あらかじめ、検討の観点を授業者が提示して、会を行う。

・　授業者は、授業日の１週間前までに、指導案(略案)を作成し、各部会で検討後、主幹・教務に指導案を提出する。

・　授業日の２日前までに、完成した指導案を職員に配付する。

・　事後検討会は、原則、授業実践を行った日の午後に行うこととする。

・　自分が所属する学年部会の公開授業に参観する。

・　授業を参観するときは、略案を参考にし、努力点の参観ポイントとなる時間帯のみ参観も可能とする。

・　各学年の授業実践の様子は、学年だより、ホームページ等を通して、保護者へ情報発信をしていく。

７　報告書の作成について

・　前期実践を行った先生を中心に中間報告書を、後期実践を行った先生を中心に最終報告書を作成する。

・　各学年の重点指導事項について、成果（○）と課題（●）をまとめる。

・　学期末に各学年で、気付いたことや今後の実践に向けて考えたことをまとめる。

８　その他

・　努力点に関係するものは、『￥校務フォルダ→¥ど　努力点→¥R７→各フォルダ』のものを活用する。

・　昨年度実施した、イエナプラン教育の軸となる「マルチプルインテリジェンス(見つけてみよう、あなたのタイプ)」を活用することで、児童が自分の「好き」や「できる」を知るきっかけや、様々な視点から自他の成長や頑張りに気付くことに繋がると考えられるため、本年度も活用をする。